

一般会計予算審査特別委員会から分担された部分を審査するため、3月10日に産業建設分科会を開催しました。

議案第25号 令和3年度総社市一般会計予算

～結果～

次のような審査の結果、本分科会に分担された部分については、全員一致で**原案を可決**すべきであると取りまとめることに決定。

～質疑～

問：交通対策経費で白線を引く基準はどうか。

答：白線を引き直す明確な基準はない。土木担当員や地域の方から指摘があった場合、現地確認をし、必要に応じて実施している。

問：公害対策で黒カビの原因調査を行うとのことだが、調査内容はどうか。

答：空中の浮遊カビ、付着カビについて、今までとは違った角度でカビの専門家の方へ調査をお願いしたいと考えている。

問：住宅災害復旧等利子補給金の利用状況はどうか。

答：利子補給の申請件数は、令和元年度が23件、今年度が20件の計43件となっている。内訳は、建設が32件、購入が4件、修繕が7件となっている。

問：浄化槽設置整備事業補助金の利用状況はどうか。

答：浄化槽設置事業補助金は5年計画で実施しており、現在の計画は令和3年度が最終年度である。年間100件から110件を見込んだ計画としており、毎年100件程度の申請が出てきている。なお、令和3年度中に、次期の計画を策定予定である。

問：コロナ禍の状況で、就職説明会等の状況はどうか。

答：高梁川流域連携の事業では、ウェブでの合同説明会を行った。企業からは対面式で求職者と話をしたいとのニーズがあったため、対面式での就職面接会を2月に実施したが、参加者はかなり少ない状況であった。コロナ禍による影響もあるが、求職の方法に変化があることから、対面式を継続していくべきか見直す時期だと考えている。

問：新規就農者の状況はどうか。

答：総社の桃・ブドウは全国的に知名度も高くなっており、就農希望者も多い。東京や広島からの新規就農者もあり、総社市での果樹生産が魅力的だと認められてきている。

問：有害鳥獣の被害が多く出ているが、この予算額でどの程度駆除できると考えているのか。

答：農作物の被害等深刻な状況である。予算としては例年並みとしているが、被害がさらに拡大するようなら議会と相談しながら対応していきたい。

問：旧堀邸の光熱水費について、利用者の負担はどうか。

答：電気代について、今年度は毎月7千円の負担としていたが、来年度からは利用者の全額負担としている。また水道料金については、地域の集会所としても使用しているため、市が負担することとしている。

問：旧堀邸の耐震等の調査結果はどうか。

答：古民家として、コストはかかるが再生可能であるとのことであった。耐震の判断は、床下等の傷みが激しく、震度5程度で倒壊の可能性が高く、一部雨漏り等も発生しており、早急な改善対策が必要とのことであった。古民家として再生するには莫大な費用がかかるため、当面はこれまでどおりの活用をしながら、改修等に必要となる経費の財源を確保する策等がないか検討していきたい。

問：働く婦人の家について名称の変更は考えないのか。

答：働く婦人の家の名称変更については、単に名称変更ではなく利用形態、施設の目的自体も含めて見直すべきではないかと考えている。名称変更、目的の変更については、補助金を活用して施設を建設しているため、国、県の承認が必要となってくるが、公民館的な使用をしていることから、公民館を管轄する課等とも相談しながら総合的な判断をしたいと考えている。

問：土木担当員要望の精査はどうなっているか。

答：現在土木担当員と面接を行い、今までの要望書の精査をし、要望書の数半分程度に減少している。現在6割程度の面接を終えている。できれば今年度中にすべて終了したいと考えている。

問：刑部三須線の令和3年度の進め方はどうか。

答：全体の区間の南側区域の道路の土工及び側溝等の排水溝の設置をする予定である。また、東総社中原線との交差点協議が難航しており、交通量調査及び交差点の修正設計等を実施する予定である。

問：市営住宅の長寿命化計画はどうか。

答：美袋住宅が解体され、復興住宅も今後市営住宅になるということで、元の計画から変わってきている。また、老朽化した市営住宅について、他の市営住宅へ集約化する計画もあるので、新たな計画を立てていきたいと考えている。

問：宿小山古墳の土地購入費が計上されているが、今後はどのように活用するのか。

答：今後の方針は文化財保護審議会や県の文化財課と活用方針について検討を行い、計画を立てて整備していく予定である。ある程度整備方針が決まったら、現地説明会等も実施していきたい。